

クビアカツヤカミキリの分布拡大

群馬昆虫学会 村田 元彦
群馬県立自然史博物館 高橋 克之

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) はサクラ、スモモ、アンズなどに穿孔被害を与える重要害虫として警戒されている。原産地中国からどのようにして日本に侵入したかは不明である。2012年に愛知県海部地域で、2013年に埼玉県草加市で成虫が確認されている。2015年以降、群馬県館林市での本種の発生情報が報じられている。2016年6月～8月に著



者らは館林市堀工町、富士原町、館林市・邑楽町（多々良沼公園）で成虫を採集した。2017年には新たに大泉町（小泉城跡）、太田市北西部の鳥山上町（菅原神社）で成虫を採集した。成虫の発生時期は6月下旬～7月上旬がピークで7月下旬になると数を減らす。2017年の8月には成虫を確認することができなかった。本種は県内で分布を拡大させており、更なる調査と対策が求められる。

産卵中のクビアカツヤカミキリ

